

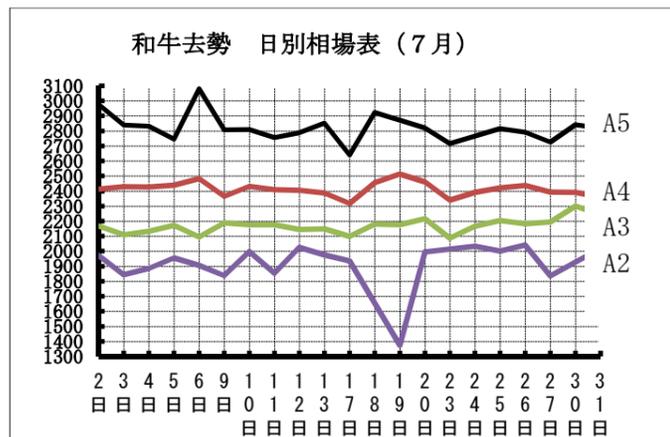
月刊しばうら

2018年8月号

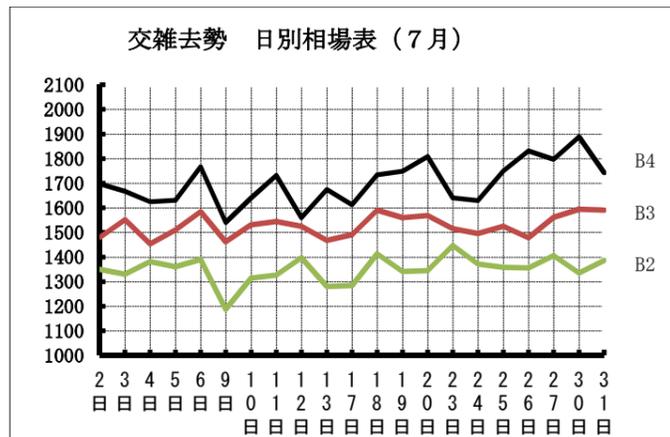
大動物事業部

<7月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 33 円高の 2,834 円（前年同月比 1 円安）、A4 が 13 円高の 2,421 円（同 20 円安）、A3 が 21 円高の 2,166 円（同 39 円高）、A2 が 84 円高の 1,948 円（同 78 円高）となった。交雑牛去勢は B4 が 31 円高の 1,686 円（同 31 円安）、B3 が 51 円高の 1,534 円（同 71 円高）、B2 が 8 円高の 1,352 円（同 166 円高）となり、和牛の上物規格については、引き続き品質と仕上りによる価格と引き合いの価格差が顕著に表れている。スソ物については本格的な夏場の行楽需要や旧盆に向けた手当て買いなどで堅調な相場となった。



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,834 円	100.0%	101.2%
A4 2,421 円	99.2%	100.5%
A3 2,166 円	101.8%	101.0%
A2 1,948 円	104.2%	104.5%



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,686 円	98.2%	101.9%
B3 1,534 円	104.9%	103.4%
B2 1,352 円	114.0%	100.6%

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 1,055 円	112.6%	101.8%

<8月の全国出荷頭数予測>

6月の食肉流通統計による全国の牛と畜頭数は、前年比 1.0%増の 8 万 2,842 頭で、和牛は 2.2%増の 3 万 4,769 頭、交雑牛は 6.2%増の 2 万 273 頭、乳牛去勢が 5.7%減の 1 万 5,049 頭となり、前月と同様に和牛と交雑が昨対増、乳去が昨対減という構図が続いている。

8月の出荷予測頭数は、前年比 3.1%減の 8 万 500 頭と予測している。品種別にみると和牛は 0.3%減の 3 万 2,900 頭、交雑種は 1.0%減の 1 万 8,700 頭、乳用種は 7.2%減の 2 万 7,600 頭とそれぞれ減少予測としている。東京食肉市場の 8 月のと畜頭数は 6,650 頭を予定している。

<8月の牛枝肉相場見通し>

7月は全国的に連日の猛暑日となっており、今月も予報では猛暑日が続くと予測されている。猛暑による消費減退の影響も懸念され、また消費者の節約志向も家計調査の支出金額にも現れているように強まっており、7月に引き続き好材料は少なく和牛はもちあい。夏場をむかえ量販店の販促も強まることと予測され、交雑牛 2・3 等級を中心に引き続き堅調な相場で推移すると思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,600~1,700
A4	2,350~2,450	B3	1,450~1,550
A3	2,150~2,250	B2	1,300~1,400
A2	1,900~2,000		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,100		

単位：t 出典：食肉速報

<8月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による 6 月の輸入牛肉通関実績によると、牛肉輸入数量は前年同月比 5.7%減の 4 万 7,337t と前年を下回った。チルドは 0.4%増の 2 万 3,467t、不要期でも前月比で 1,500t 弱しか減らず、フローズンは 11.0%減の 2 万 3,870t で、SG 発動回避へ第 1 四半期の必要数量の多くを 4~5 月に通関し、6 月は最小限の通関にとどめたことで、フローズン全体では前年比 1 割減となっている。

農畜産業振興機構の予測による 8 月の牛肉輸入数量は、前年比 13.1%増の 5 万 3,000t と予測。チルドは、前年同月比 3.4%減の 2 万 4,600t。フローズンは、33.0%増の 2 万 8,400 t で前年に SG が発動したこともあり、その反動により米国産の増加が見込まれることから、前年を大幅に上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		6月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,323	10,412	108.7%
	米国	10,946	11,944	91.6%
	その他	1,198	1,009	118.7%
	合計	23,467	23,365	100.4%
フローズン	豪州	13,480	14,877	90.6%
	米国	7,562	7,873	96.0%
	その他	2,828	4,067	69.5%
合計	23,870	26,817	89.0%	

単位：t 出典：食肉速報

小動物事業部

農畜産業振興機構の 5 月豚肉需給動向によると、推定出荷量は、国産品 7 万 5,842 t（前年同月比 103%）、輸入品 7 万 8,175 t（同 113.3%）、合計で 15 万 4,016 t（同 107.9%）と前年同月を上回った。これにより、推定期末在庫は国産品 1 万 9,021 t（同 106.9%）、輸入品 16 万 1,265 t（同 98.1%）、合計 18 万 286 t（同 98.9%）と減少した。

6 月の全国と畜頭数は前年同月比 2.9%減の 127 万 4,234 頭と前年より減少した。同月の豚肉通関実績は、総量で 7 万 6,742 t（95.8%）と前年同月から減少した。チルドは 3 万 1,724 t（同 94.6%）と減少。内訳は、米国が 1 万 6,246 t（同 92.1%）、カナダ 1 万 4,545 t（同 97.5%）、メキシコ 929 t（同 96.1%）と減少した。同じく、フローズンも 4 万 5,019 t（同 96.7%）と減少し、内訳は、デンマーク 9,430（同 100.5%）、スペイン 1 万 1,057 t（同 112.9%）、メキシコ 6,344 t（同 101.9%）、米国 4,488 t（同 101.6%）、カナダ 3,281（同 76.4%）となった。

<7月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	61,500	567	553	537
3日	62,900	575	567	868
4日	38,800	571	544	748
5日	63,100	586	560	704
6日	60,100	595	581	819
9日	58,100	644	633	583
10日	61,000	676	664	893

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 5 万 7,929 頭。当市場は平均 736 頭。

月初の手当てもあり、先月末からは荷動きも多少は良化傾向にあるものの、末端消費はそれほど活発ではない。特にバラは例年同様、この時期は荷動きが鈍い。冷凍在庫も比較的多い為、一部では投げられるケースもあるようだ。一方ロースは気温も上がってきたことにより、引き合いも増えてきている。また、カタロース、ヒレは引き続き堅調な荷動きだ。スソ物については、モモの引き合いは強いが、ウデは鈍い状況。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	59,400	688	649	647
12日	62,000	676	668	695
13日	58,300	700	687	952
17日	70,400	685	668	619
18日	64,600	677	646	928
19日	62,200	671	646	687
20日	63,100	653	614	916

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 2,857 頭。当市場は平均 778 頭。

連休前手当てのタイミングで西日本豪雨災害が発生し愛媛県のと畜場が被害を受けたほか交通網の混乱もあり、西日本方面からカット筋に対して供給依頼が増え、関東周辺市場の相場を押し上げる展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	59,500	630	586	643
24日	59,800	661	642	792
25日	57,800	640	586	651
26日	59,300	643	603	683
27日	55,900	670	637	746
30日	58,300	695	652	578
31日	59,700	703	670	731

下旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 5 万 8,614 頭。当市場は平均 689 頭。西日本豪雨の影響などは落ち着いてきたものの出荷頭数はそれほど多くはなく品薄感があるため、全体的に荷動きは堅調。夏休みの行楽需要の増加もあり、スベアリップなどのアイテムの引き合いは強い。

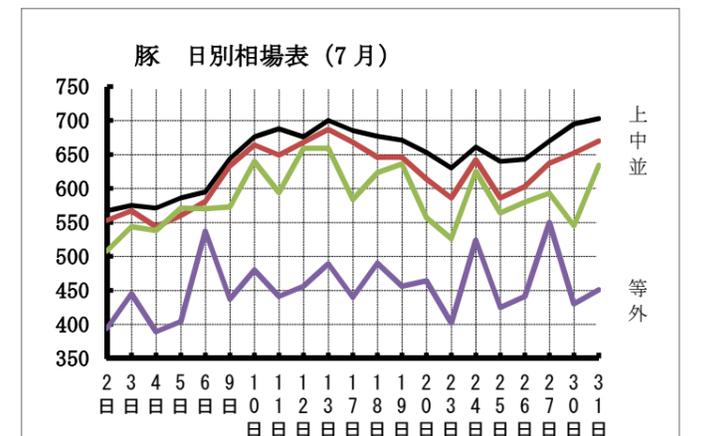
<8月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 8 月の全国と畜頭数予測では、131 万 6,000 頭（前年同月並み）、1 日あたりの頭数は約 6 万 2,666 頭（21 日稼働）で、前年同月よりも 2,800 頭ほど少ない見通しだ。

当市場の 8 月の集荷予定頭数は 1 万 5,500 頭となっており、1 日あたりでは約 738 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると 8 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 6,200 t（前年同月比 97.2%）の予測となっている。内訳はチルドが 3 万 3,000 t（同 90.4%）、フローズンは 4 万 3,200 t（同 103%）の予測である。

猛暑の影響を受け、枝肉重量 70kg を割るものや、脂の薄い枝肉が増え始め、今後も増体の良くない豚の出荷が続く可能性がある。7 月は 600 円台半ばの高値相場展開となったが、末端消費は低迷しているため、パーツ相場はスソ物中心に価格が上がらず中間流通にとっては非常に厳しい状況に置かれている。このためお盆休み明け以降は実需を反映して相場は下落傾向になることが予想される。以上のことから当市場の上物平均価格は 590 円前後、中物平均 560 円前後と予測する。



第 58 回農林水産祭参加

平成 30 年度東京食肉市場豚枝肉共励会

開催日：平成 30 年 8 月 31 日（金）

出品頭数：1,000 頭

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>